

よ う こ そ

第 42 号

浄土真宗本願寺派

円 光 寺

〒870-0108

大分市三佐3-15-18

TEL097-527-6916

FAX097-527-6949



高く
て
大
き
な
お
寺
の
尾
根
で
す

(上) 乙津川の土手の向こう
三佐の町中中心に
円光寺を望む



(左) 雪化粧したお寺の景色を
電車から望む
(2月7日、福岡県豊前市)

仏さまが見ていてくださる

二月の大寒波が九州に襲来した日、大分から特急で小倉へ、新幹線に乗り換え京都に行きました。電車の窓の外の風景が、杵築辺りから雪景色に変わりお寺の屋根が目につきます。中津から行橋にかけて浄土真宗の高くて大きな特徴的な屋根が雪をいただいてとてもきれいでした。

お寺の屋根はそびえ立つ山のようです。お寺には山号があり、元々お寺は仏道修行の道場で人里離れたところ、山に在ったことに由来します。

浄土真宗のお寺は山中ではなく、人びとが生活する里中にあります。そして他宗のお寺の屋根に比べて高く大きく地域の中でもとても目立ちます。

武田信玄の旗印『風林火山』に「動かざること山の如し」とあります。実際には山も常に活動して動いていますが、いつもの場所から見る山は幼い頃から見てきた山といつも同じかたちです。

山は動かない、変わらない真実の仏法を表します。お寺は仏法が説かれる処です。

無常のこの世を生きる私たちです。変わりゆく周囲の動態に目を奪われ心乱し、老病死のこの身を嘆く私たちです。苦悩と不安がつります。

先人は日々生活する場所からお寺の屋根をみてお念仏申したのではないのでしょうか。無常の身を生きる迷いの凡夫を必ず救うと抱きとってください。南無阿弥陀仏の仏さまを思っています。

京都からの帰り、鶴崎駅に向う乙津川の鉄橋から遠く円光寺の屋根を望みます。いのちの古里のお寺です。帰り往く私を待っていてくれます。

お寺には家族がいます。大きな屋根の下、阿弥陀さまを中心に集うお念仏の仲間です。ご一緒にお念仏申す生活をさせていただきます。

△念仏の声を世界に子や孫に▽ お念仏の声かけをしましょう

ちよつと立ち止まって

一年一年歳を重ねて思うことは、何か毎年同じことの繰り返してすつと時間だけが過ぎ去っていくような不安な思いです。このまま命終えていくには何か虚しさを感じ、ため息をつくことも多くなりました。

寺の住職として二十年、地域に開かれた、皆さんに親しまれるお寺づくりをめざして、お寺の法要行事のあり方を見直しつつ活動してまいりました。

一人では何もできない

お寺の護持運営をはじめご門徒皆さんの理解と協力的なしにはお寺の活動は到底できません。

どうしても私に力が入り、うまくできたこともありすが、一人では何もできないことを思い知らされることもありました。

住職の役割

発信者の務めを思います。毎月の『円光寺通信』と『ようこそ』の発行を続けてきました。特に『ようこそ』はご門徒に限らず、寺関係者そして友人知人に広く送信して、発行部数は六百部になります。これまで仏さまのご縁のない方にもお届けしていま

す。返信があります。楽しみです。何度も励まされました。有難いことです。

いっしょにいこうえい

いのちのつながりを思います。南無阿弥陀仏のいのちのつながりです。「いっしょにいこうえい」とお念仏の声かけを続けます。

「はい」と受けとめてもらい、隣りの人に声かけをしていただければ、お念仏のつながりがより大きな輪になります。

ようこそアミダどもの会

これまでの歩みを通してお寺の施設を活用した催し、お寺を飛び出してつくる構想を提案し

「いっしょにいこうえい」 お念仏の声かけ運動 『ようこそアミダどもの会』構想

- <目的>自らお念仏のご縁をいただくとともに、一人でも多くの人にお念仏のみ教を伝えていくお手伝いをさせていただく
 - <メンバー>「ようこそアミダどもの会」の趣旨に賛同する登録メンバーによって構成する
 - <登録>単年度(4月から3月までの一年間)登録とし登録費(年会費)は会員一人1,000円とする
 - <定例活動>大分まちなか法話会(大分市コンパルホール、毎月1回)
 - みんなの法話会(円光寺あんのん館、毎月1回)
 - <公開行事>※随時開催。「ようこそアミダどもの会」が企画主催する。一人でも多くの人にお念仏のご縁づくりをすすめる
 - (企画例)○おでかけ法話会
 - 東京、大阪、福岡など全国各地
 - 仏教聖典講座
 - お経のお話
 - 仏事に関する講習会～しゅうかつのススメ
 - 葬式法事の話
 - お仏壇・お墓の話
 - 仏教文化講演会
 - ご縁のある各界の著名人に講演をお願いする
 - 仏教文化教室
 - 腕輪念珠作り、におい袋作り
 - いろいろ面白ミーティング(であいの場づくり)
 - 音楽コンサート、落語会
 - 坊主バー、婚活
- 以上、思いつくまま種々列記しましたが、賛同される皆さんとご一緒につくりあげていく会です。その他おもしろい企画がありましたら教えてください。



元気いっぱい水曜学校の子どもたち
(12月13日、二学期修了式)

ます。これまで一度は試みた企画です。ご意見をいただければ有難いです。あわせて皆さんのご参加をお待ちしています。お念仏があふれるお寺に、家庭に、地域社会になれるように、私にできる精いっぱいのお手伝いをさせていただきます。

世々生々

アメリカの学校でまた銃乱射事件がおきた。銃社会アメリカは日本では想像できない闇を抱える。西部開拓時代、原住民を銃で制圧してきた建国の歴史がある。原住民は野蛮で何をかすかわからない。銃さえあれば身を守ることが出来る

◆「教師が銃をもっていたら子どもたちを守れた」と大統領は説く。銃をなくす論議にはならない◆北朝鮮の核問題は、核拡散の方向に世界を動かし何とも不気味だ。善い国悪い国を識別し、悪い国に核を持たすと大変なことになり、善い国が持つ抑止力になって世界の平和を守れると主張する◆銃がある安心か、銃がない安心か。核がない平和か、核がある平和か◆安心といふ平和といい、私一人の問題ではない。私たちの安心であり私たちの平和である。あらゆるいのちのつながりのなかに生かされて生きている私たちがあると仏法は説く◆共命鳥の教えに聞く。体が一つで頭が二つある鳥だ。互いが正義を主張して一方が毒を食わさせる。食べた方は勿論死ぬが、食わせた方も体が一つで死んでしまう。考え生き方が違っても、いのちはみんなつながっている。

お朝事「法話」より

うちのお寺のご院家さん

昨日電話で、「そちらのお寺は四十九日(満中陰)のお勤めは門徒でないとしていただけなのですか」という問い合わせがありました。

今はお坊さんの派遣業というお葬式の仲介をしてくれる業者があるということです。大分県内の各宗派のお坊さんを登録していて、お葬式をその業者に頼むと、葬儀社とお坊さんをセットで紹介してくれるという仕組みです。

大抵お葬式初七日までの契約だそうです。頼む方もお葬式だけで以後のお寺とお付き合いは遠慮したいということで、ニーズにピタリ合うといえます。

ところが親戚縁者からお葬式の後のお勤め、四十九日や初盆、年忌の法事をどうするのかという声があります。

といってもお葬式で頼んだお坊さんは業者が手配したお坊さんで、お葬式だけのご縁のお坊さんなのです。

お坊さんはお坊さんでお葬式のお勤めだけで充分なのです。なるべく多くのお葬式にお参りできた方がいいわけで、その他



1月21日より毎日御和讃を一首ずつ拝読しプリントして綴りました(12月18日)

のお勤めが入ってくるとお葬式の依頼に応えられず業者から見放されることにもなります。

そういうなかで満中陰のお勤めをどうするのか、お坊さん探しが始まるのです。

お坊さんは、ただお経を読む人なのでしょかね。お経は、亡き人を供養するための道具手段なのでしょかね。

日頃からよくお聴聞されている方はともかく、一般的にはお経とはそういうものだと思います。いる人が殆どだということですね。

お葬式はお坊さんだったら誰でもいいのではありません。お寺のご院家(住職)さんの大きなお役目なのです。

ご門徒さんとお寺のつながりは、共に仏さまのご縁をいたたくお寺のご院家さんとのつながり

りなのです。「ご院家さんあなたに、私のお葬式を執り行なってください」と日頃から思っているだけのご院家さんです。

お寺にお葬式をお願いするところが、そのまま七日満中陰、初盆、一周忌のご縁とつながっていくのです。ご縁がつながるとは、私たちのお念仏のご法義は死んだらお終いというご法義ではないということなのです。

死を縁にしていよいよこのご法義がいきってくるのです。先に往かれたお念仏の先人は、仏さまです。阿弥陀さまのお浄土に往生生まれて、今は仏さまになってくださっています。

仏さまになったらゆつくりゆつたりあの世とかで眠っておられないで、私のところに南無阿弥

お朝事にお参りしましょう
毎朝6時30分〜7時

ご案内

◆春季彼岸会

3月20日(火) 11:00~15:00
同 19:30~21:00
3月21日(水) 13:30~15:00

◆花まつりの会

4月8日(日) 9:30~11:30
(白象パレード、新1年生を祝う会
フルーツ&ギターコンサート)

◆宗祖降誕会

5月20日(日) 10:00~15:00
(初参式、バザー、もちまき)

◆常例法座

6月15日(金) 10:00~11:30

“月に一度は
お寺参りしましょう”

※詳しくは「寺通信」でご確認ください。

円光寺ホームページで
お朝事「法話」を
日々更新して
お聴聞して

陀仏と還って来て、いよいよ護り救うという仏さまのおはたらきをはじめられるのです。今日お葬式があります。小さい頃から私のことをよく知って見てくれていたご門徒さんです。そのご門徒さんとのつながりはお葬式だけのつながりではありません。生きていた時からつながりです。そして命を終えてからのつながりでもあります。そのご縁はそれの人だけではなくそのご家族、周囲の方にもつながっていきます。南無阿弥陀仏のおはたらきです。大いなる仏さまのご縁といただきます。(2月9日)

寺院名 浄華山 円光寺

住職名 藤並 晃照



報恩講前の大掃除のあとで

円光寺仏教婦人会は昭和10年結成、現在146名の会員で構成。主な活動として毎月の清掃奉仕、降誕会の物品食品バザー、子ども会サマースクールの食事作り、盆おどり大会の参加、敬老会では手作り弁当でお祝い、何とんでも御正忌報恩講のお菓子(落雁)作り・おかざりつき・おかざりもうしは和気あいあいと、作る楽しさと共に笑顔の絶えない親睦の場となっています。

これらの行事は歴代会長を中心に受け継がれたことを深く感謝し、私たちも次世代へと伝えていきます。



報恩講おかざりつきのようす

二月四日(日)にいいちこ音の泉ホールで「今、あなたに伝えたい『阿弥陀さまが一緒ですよ』のテーマで開かれました。当日の冊子に各寺仏教婦人会の紹介が左記の通りありました。

大海組仏教婦人会連盟六十周年記念大会に 円光寺から五十名が参加しました



稲田英真ご講師(大分市里光国寺様)にご法話お取り次ぎをいただきました (11月27日)

親鸞聖人御正忌報恩講



記念法話のようす
東九州龍谷高校ナムナムガールズのパフォーマンスもあり楽しいご縁になりました (2月4日)



人形劇スタッフの中高生の皆さんお手伝いありがとうございました



ぜんざいのおせつたいを皆でいただきました「合掌・・・いただきます」



本堂でおつとめの後 仏さまのお話を聞きました (11月26日)

こども報恩講

韓国平昌五輪は日本選手の活躍もあって注目された。なかでも女子カーリングは初の銅メダルに輝き多方面で話題になった。その一つが「そだねー」。互に顔を見て声をかけ合い作戦を確認する。チームワークがいきる。南無阿弥陀仏のお心を思う。苦しむ悩む私にいつも寄り添い「そだねー」とそのまま引き受けてくださる。阿弥陀さまがいつでもどこでも一緒ですと聞かせていただき、安心してこのいのち輝かせて生きていける。「まかせよ救う」のおよび声に「そだねー」とお念仏申す。

あとかぎ



仏教壮年会総会に24人の朋友が集まりました。お寺を思い支えてくださる頼もしいお念仏の仲間です (2月11日)

第二日曜日は 仏壮の日です